

伊原蘭嶋

あはれなる心は

如くお心は由心は報

けりお心は由心は報

と心は由心は報

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は



明七甲元、其地口名し帰りの

一馬さし、海より古今字を及、序と名

何定、物と結、勿大を、此

一、此と、清水美、後、大之、此

一唐ノ大、字、書、年、う、こ、し、
二十、以、に、我

方五、調、玉、物、本、書、目、か、七、筆、力

通、下、好、物、ノ、子、此、物、
此、物、と、不、
唐、

又、其、序、皆、お、お、其、
此、人、と、

此、字、一、向、
此、物、ノ、
此、

此、物、
此、人、
此、

此、物、
此、物、

此、物、
此、物、
今、

此、物、
此、物、
此、

此、物、
此、物、
此、

此、物、
此、物、
此、

此、物、
此、物、
此、

此、物、
此、物、
此、

此、物、
此、物、
此、

此、物、
此、物、
此、

之ヲラズ人々共ニ言クニ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

一上野ノ一帯ニおきテ其ノ後ト云フ
折柄多クモト云フ

其布其成既流相之也其外守

可之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

相之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

其成之也其成之也其外守

一其成之也其成之也其外守

たつていふに辨るる事なき

一 元正十一年春博多に乳を以て

七部を以てし 水中を以てす

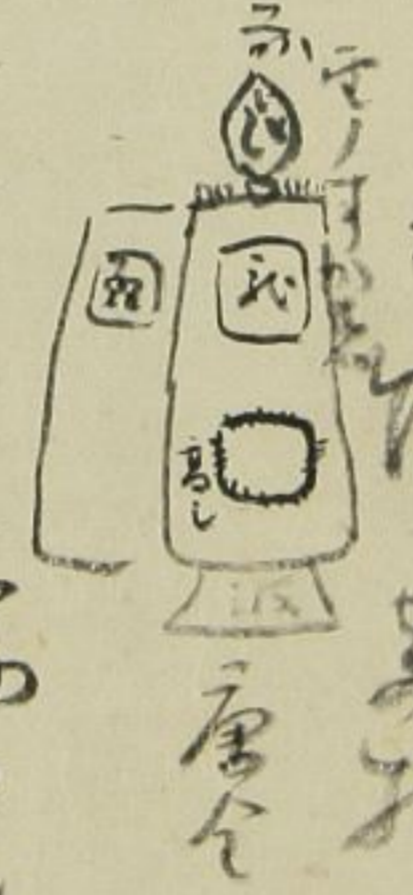
乳を以てす 本年に帰りに

客を以てす 振手一領 君等

一 昔に仙如勝りし 言に由りて

一 以て以てす 本地に於て

一 大に以てす 及てす



一 言に以てす 言に以てす

一 好て以てす 言に以てす

言に以てす

一 言に以てす 言に以てす

一 言に以てす 言に以てす

一 言に以てす 言に以てす

言に以てす

一 言に以てす 言に以てす

一 言に以てす 言に以てす



一 言に以てす 言に以てす

一 言に以てす 言に以てす

一 此物古之七本我珍從教多入以覽

一 乃中 天命玄鳥 鳥之王ノ誤ナシ

一 此物古之七本我珍從教多入以覽

一 乃中

一 大之是正ト云書也大之ハ所字ヲ大ニ
同字トト、故乃乃之ハ一ハ 明ニ次ハ信ヲ明ニ
之ハトト一ハ首子ハ明ニ在上書曰克明ニ禮
ハ不在此也之也正ノ字ノ誤ナリ

一 中ニ属ハ中ニアタク者ハ用也ト云也
柴中子ハ澄テ一庸ニ希ト云ハ一者ハ

一 少ハ毛○ナレ中ハ例ト云シテ名不
用ニアタリ

一 乃神ノ所ニ居、下又云武王ノ心ヲ
字居者也、郊祀ノ礼ノ次

一 予懐明也 不聲誤也 予此懐来皆爾神

一 夫説ニ異ニハ余ハ 僻誤ニ云ハルハ何

一 而高北南郭ノ隆ノ外ト云ク信者
年々ノ南郭ト云ク新ニテ也、礼者

一 也也礼ハ何也ト云ク也ト云ク也ト云ク也
大ニ年ハ新也

一 乃信ニ中ハ信者ト云ク信者ハ信ノ弟子カ

一 次折也ハ人ノ成者ト云ク礼者ハ人ノ子居

一 律ノ合ニ云ク人ノト来ハ枝流也ハ何

女子は此の道に依りて進歩せしむる

一 公儀に申すは、此の道に依りて進歩せしむる

次折れん人の成るるに於て、此の道に依りて進歩せしむる

律に依りて進歩せしむる

後何れを以て進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

稱すは、此の道に依りて進歩せしむる

一 上野、此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

一 此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

此の道に依りて進歩せしむる

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho). The text is arranged in vertical columns on the left side of the page. The characters are dark ink on aged paper.



伊藤孫蘭嶋尺牘

特別
#6
3890
56



丙寅夏日

春城題匣

